

## 畑雑草の幼植物

### (3) シロザとコアカザ

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 浅井元朗

シロザ (*Chenopodium album* L.), コアカザ (*C. ficifolium* Smith) はいずれもヒユ科アカザ属\*の一年生草本である。シロザの変種で、葉の表面が赤色をおびるタイプをアカザ (*C. album* L. var. *centrorubrum* Makino) という。シロザ, コアカザともに、早春期から発芽, 出芽し, 初夏～夏期に開花・結実する一年生草本で、畑地の代表的な雑草である。休眠覚醒したシロザ種子の発芽適温は低く, 冷湿処理をした種子がしばしば低温保存中に発芽する。夏雑草ではもっとも出芽時期の早い草種の1つである。

シロザ, コアカザとも子葉は長さ約5mm, 幅1mm程度で, 多肉質で先の円い線形である(写真-1:シロザ, 写真-2:アカザ, 写真-3:コアカザ)。第1葉は対生状で, シロザ, アカザでは長さ約1cmの三角状卵形であるのに対し, コアカザは幅狭く, 線形～広線形である。両種とも葉の表面に粉状物があり, アカザではこれが赤い。

第3葉以降, 葉の縁の鋸歯が明瞭となり(写真-4:シロザ, 写真-5:コアカザ), 葉は互生となる。シロザの葉は卵形または三角状卵形(写真-6), コアカザは三角状狭卵形または長だ円形で, 下方の茎葉は3裂状に側裂片を出す(写真-7)。両種とも葉柄は長く, 茎葉は無毛である。

写真-8はアカザ(左)とシロザ(右)。アカ

ザはシロザほど多くはない。新芽の赤色は指でこすると簡単に落ち, 生育の進展とともに薄れる(写真-9)。花序が出る頃にはシロザと見分けがつかなくなる場合が多い。

シロザは畑地や荒地にしばしば大群落を形成し(写真-10), 密生状態では茎は直立し, 夏期には草高2mに達する。開放的な立地では旺盛に分枝し, 海岸近くの塩分の高い空き地などにも生育する(写真-11)。

コアカザはシロザより小型で, 成植物の高さ30～60cm, 5～7月に開花する(写真-12)。北日本ではシロザと同様, 夏作物の雑草となるが, 関東以西ではムギ類やキャベツ, パレイシヨなど作期の早い作物畑に生えることが多い。

シロザの花序は緑色の穂状で, 花卉のない萼片のみの花を密生する(写真-13)。まれにアカザで花穂まで赤いタイプもある(写真-14)。コアカザの花序はシロザに比べて分枝が多く, 丸みがある円錐花序となる(写真-15)。茎上部の葉は細い。

多くのシロザは短日性で8月以降に出穂開花するが, 早生のタイプもある。早生型はコアカザと同様に早春期に出芽し, 5～7月に開花結実するため, ムギ作圃場で生活環を全うできる(写真-16)。早生タイプのシロザでは, 葉はだ円形から披針形で鋸歯が出ないものが多い。

\* アカザ科は2003年のAPGII分類体系によりヒユ科に含まれた。



写真-1 シロザの子葉と  
第1, 2葉



写真-2 アカザの子葉と  
第1, 2葉



写真-3 コアカザの子葉と  
第1, 2葉



写真-4 シロザの幼植物。  
左右に柄を広げたのが  
第3, 4葉。上下に  
展葉中の最上葉が第  
5, 6葉。



写真-5 コアカザの幼植物。  
第5, 6葉を展葉中。



写真-6 シロザ生育初期。  
茎基部の葉ほど柄が  
長い。



写真-7 コアカザ生育初期



写真-8 アカザ(左)とシロザ(右)。中央の幼植物はイヌホオズキ。



写真-9 アカザ生育中期。  
新芽の部分のみ赤い。



写真-10 シロザ生育中期の密生群落



写真-11 砂地のシロザ単立個体



写真-12 分枝を広げた開花期のコアカザ



写真-13 開花後の  
シロザの花序



写真-14 開花中の  
アカザの花序



写真-15 開花中の  
コアカザの花序



写真-16 オオムギ園場のシロザ。  
右側が開花結実した早生型。